

一足早い中国活用

ソウル支社 稲垣 佐知也

先日、リチウムイオン電池（LIB）部材の取材で中国に2週間ほど出張で行ってきた。LIB市場では日本、韓国、中国が市場のシェアをほとんど占めており、中国もLIB大国の一つである。数年前まではLIB用部材については日本メーカーが大部分のシェアを占めていたが、韓国、中国でも自国部材企業の育成、コア技術の強化等の目的で部材メーカーが育ち始めた。韓国、中国LIBメーカーは低価格、安定、迅速な調達を目的として自国内のLIB部材へ採用をシフトしており、品質が向上したこともあり、LIB用部材市場でも韓国、中国メーカーのシェアが上昇しつつある。

このような背景から中国LIB部材メーカーへの注目度が高まっており、弊社でも数年前から中国への取材を本格化させている。以前は1週間程度でヒアリングを終えることができたが、シェアの高い大手企業が増加し、また、中国は国土が広いこともあり、2週間の出張となった。なお、今回の旅程を簡単にご紹介すると、上海→深圳→東莞→深圳→長沙（湖南省）→深圳→北京→天津→新郷（河南省）→上海というものであり、私自身としては肉体的にも精神的にもキツイ出張であった。

LIB市場でも価格競争が激しい。多くの日系LIBメーカー、LIB部材メーカーが価格競争で韓国、中国メーカーに競い負ける場面が増加しつつある。特に日系メーカーにとって一番の競合である韓国のサムスンSDI、LG化学はボリュームゾーンへの集中投資による量産効果により価格競争力を強化している。更に、もう一段の低価格化を進めるため、近年では積極的に中国のLIB部材を活用し始めている。

LIBに限らず、多くの中国製品は「安かろう、悪かろう」のイメージがいまだに根強い。日系LIBメーカーに何うと、「確かに安いんだが、品質が。。。」「サンプルは良いが、本格的に調達し始めると品質にバラツキがあり。。。」「といった意見が一樣に聞かれる。そのため、日系LIBメーカーは中国LIB部材メーカーの採用に二の足を踏んでいる状況が続いている。

一方、韓国でも同様の意見が聞かれているが、彼らはそこから一歩進み出し、調達に至っている。韓国LIBメーカーは中国LIB部材を使いこなそうと努力しているだけでなく、直接彼らに対し指導を行い、中国LIB部材の品質向上に積極的に関わっている。3月号のコラムにて「韓国の場合、セルメーカーと部材メーカーの研究者が共同で同じ課題に取り組んでいるケースが多いようだ。部材メーカーから見れば電池特性の向上に向け、様々な要求はされるものの、共同で取り組むことで技術情報に関するやり取り（データのフィードバックなど）が行われ、課題に対する認識を共有でき、課題解決できる可能性も高まり、かつ、情報を共有しているが故にそのスピードも早い」ということを記載させて頂いたが、これを中国の部材メーカーとの間でも進めているようだ。実際に韓国LIBメーカーの関わり度合いは具体的に明らかにはされなかったが、中国LIB部材メーカーによれば韓国LIBメーカーは頻繁に中国を訪れているようである。

事実、今回の中国 LIB 部材メーカーへの取材では多くにおいて「実は今週、韓国 LIB メーカーが弊社を訪問されます」「先日、〇〇と打ち合わせをしました」という話を伺った。韓国 LIB メーカーの中国部材活用度は日系メーカーと比較して進んでいるものの、部分的に留まっていると見ていたが、今回の中国出張により、想定以上に中国部材シフトが進んでいることが感じられた。

一方、日系 LIB メーカーであるが、「去年、〇〇がいらっしやいました。でも、その後は特に連絡が。。。」「あんまりコンタクトはありません」といった声がほとんどであった。日系 LIB メーカーも製品の低価格化を進めるため、中国部材の活用を積極的に「検討」し始めてはいるが、韓国と比較するとそのスピードは遅い。

もちろん、中国部材の活用がただ一つの解ではないが、LIB 製品における部材コストは多くを占めており、低価格化という意味では効果は大きい。為替の差、電気代などのインフラコストなど、韓国と比較して日系メーカーにとっては不利な面があるものの、部材コストまで差がつくようであれば、LIB における日韓の差は更に広がってしまうのではないかという懸念が生じる。

「日系メーカーが考えているうちに、韓国メーカーは既に歩き始めている」。様々な分野で語られていることであるが、今回の出張で改めて、更に強く考えさせられ、簡単ではあるがここで紹介させて頂いた。

- ※ 出張スケジュールは2月下旬から3月上旬であったが、深圳では最高気温20度以上、北京では最低気温-10度と気温差30度あった。季節によるが、中国出張時には2季節対応の服の準備が必要。
- ※ 中国には朝鮮族が結構多く、日本語より韓国語が通じるケースが多々ある。
- ※ 中国では国策でEVを推進させているように見えるが、実際には程遠く、大型バス、タクシーなど商用車のEV化からスタートしている模様。普通車のEV化には部材、セル、自動車それぞれにおいて、外部の技術導入が不可欠との意見が多く聞かれた。
- ※ 個人的には上海が最も落ち着く。スクラップ&ビルドは継続しているが、万博も終了し、大規模工事は一段落した模様。そのため、以前と比較するとホコリっぽさが少なくなり、清潔度が向上した印象を受けた。一方、北京、深圳等は未だにあちらこちらで工事が行われており、常に空気が澱んでいる。
- ※ 中国での移動はタクシーも不可欠。ただ、中国人であっても地元の間人でなければタクシーでの移動は色んな意味でストレスが生じる。そのため、運良く「まともな」運転手に出会うことができれば携帯電話等の連絡先を確保されることを勧める。様々な意味で安心して、ストレスフリーな出張が可能となります。
- ※ 中国人から見れば、韓国人の方がお酒の飲みは大変らしい。特に「爆弾酒」は恐怖とのこと。私から見ればどっちもどっちであるが。。。

執筆者略歴：稲垣佐知也

2000年、(株)矢野経済研究所入社。レーザーやLED、光通信用部品、レンズといったオプトロニクス分野、コンデンサ、PCB、水晶デバイスなど電子部品など、エレクトロニクス関連の部品市場に関して一貫して調査研究を実施。近年はリチウムイオン電池を中心にエネルギー関連の調査をメインに担当。